

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

令和4年度病虫害発生予察情報について

このことについて、発生予報第12号（3月）を発表したので送付します。

鹿児島県病虫害防除所

〒899-3401

南さつま市金峰町大野 2200

TEL 099-245-1081 (代表)

099-245-1157 (直通)

099-245-1149 (FAX)

テレホンサービス

鹿児島 099-296-6430

296-6431

ホームページアドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/kagoshima>

メールアドレス：[nousou-boujo@pref.kagoshima.lg.jp](mailto:nousou-boujo@pref.kagoshima.lg.jp)



## 農薬の安全使用に努めましょう

### 農薬安全使用五つの柱

1. 使用する人の安全 使用者自身の健康管理，安全使用
2. 作物に対する安全 適期，適正防除で薬害防止
3. 農産物に対する安全 消費者へ安全な農産物を供給  
(農薬安全使用基準の遵守)
4. 環境に対する安全 周辺環境への影響防止  
(周辺住民等への危被害防止)  
(河川，湖沼，海などへの汚染防止)  
(養蚕，養蜂などへの危被害防止)
5. 保管管理の安全 保管管理の徹底で事故防止

## 農薬ラベルを確認しましょう

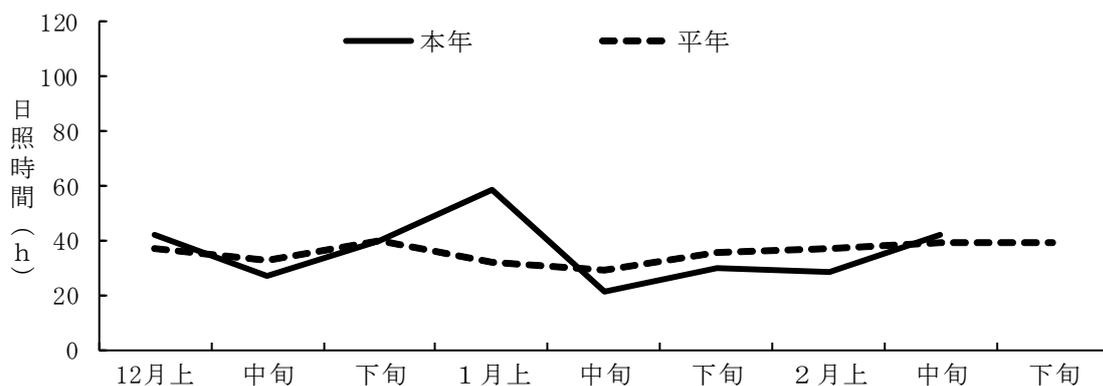
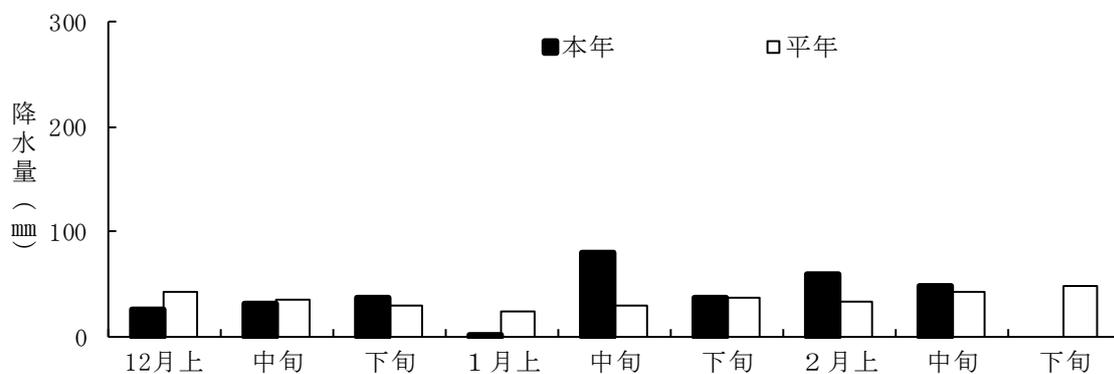
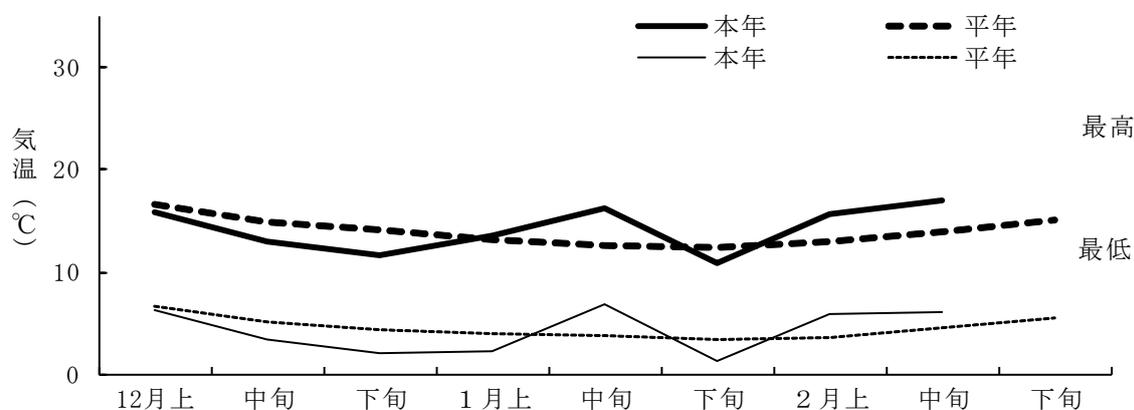
## 農薬の飛散（ドリフト）にも注意しましょう

【気象概況】

I. 向こう1か月の予報（2月18日から3月17日） 令和5年2月16日 鹿児島地方気象台 発表

要素	地域	確率（％）			概要
		低い(少ない)	平年並	高い(多い)	
気温	九州南部	20	40	40	九州南部では、気温は平年並か高い、降水量は平年並か少ない、日照時間平年並の見込み。奄美地域では、気温は平年並、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並の見込み。
	奄美地方	30	30	40	
降水量	九州南部	40	40	20	
	奄美地方	40	40	20	
日照時間	九州南部	30	30	40	
	奄美地方	30	30	40	

II. 12～2月の気象情報（鹿児島地方気象台 観測点：加世田）



### 【病害虫発生予報の概要】

作物		病害虫名等	発生量	
			現況	予報
野菜	キュウリ	べと病	並	並
		退緑黄化病	多	多
	ピーマン	斑点病	やや多	やや多
		アザミウマ類	やや多	やや多
	イチゴ	アザミウマ類	多	多
		ハダニ類	並	並
	施設野菜共通	灰色かび病	やや多	やや多
		うどんこ病	やや多	やや多
		菌核病	やや多	やや多
	キャベツ	菌核病	やや多	やや多
	エンドウ類	褐紋病・褐斑病	並	並
		うどんこ病	並	やや多
		ハモグリバエ類	並	やや多
		アザミウマ類	少	やや少
	バレイショ	疫 病（県本土）	並	並
〃 （熊毛地域）		やや多	やや多	
〃 （奄美地域）		少	少	
花き	キ ク	ハダニ類（県本土，施設）	並	並
		アザミウマ類（県本土，施設）	並	並
茶樹	チャ	カンザワハダニ	並	やや多

## 【 病 害 虫 発 生 予 報 】

### I. 普通作物

#### 防除に関する今月の留意事項

##### 1. サツマイモ

###### (1) サツマイモ基腐病

次作の発病リスクを軽減するために、以下の防除対策を徹底する。

###### <育苗床>

ア 育苗床では、萌芽の確認や育苗管理及び採苗作業で繰り返し出入りするなど、再汚染のリスクが極めて高いため、育苗床専用の長靴や手袋などを使用する。

イ 萌芽した芽に変色やしおれ症状が見られた場合は、直ちに種いもごと抜き取り、ほ場外に持ち出して適切に処分する。また、萌芽せずに腐敗した種いもも掘り取り、同様に処分する。抜き取り後は、速やかに銅剤を散布する。

###### <採苗>

ア 基腐病等の感染を抑えるため、地際部から5cm(2～3節)以上の高さの位置で採苗する。

イ 採苗するハサミの刃先は、こまめにバーナー等であぶって殺菌・消毒する。

ウ 苗消毒は、採苗後速やかに行う。薬液は、日光や汚れなどで消毒効果が減少するため、使用日ごとに毎回調整する。

###### <ほ場の準備>

ア 排水不良なほ場は耕盤破碎や明きよの設置を行い、ほ場外への排水を促す。

イ 排水路側の枕畝は表面排水を妨げるため、作らない。枕畝を作った場合は、その途中に排水溝を設置する。また、ほ場外の排水路は、つまりがないか確認する。

サツマイモ基腐病の生態と防除に関する詳しい情報は、鹿児島県 ([https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570\\_20221018104909-1.pdf](https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570_20221018104909-1.pdf), [http://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570\\_20221226173000-1.pdf](http://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570_20221226173000-1.pdf)), 農研機構 ([https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/publication/files/stem\\_blight\\_and\\_storage\\_tuber\\_rot\\_of\\_sweetpotator03.pdf](https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/stem_blight_and_storage_tuber_rot_of_sweetpotator03.pdf)) をご覧ください。



鹿児島県  
サツマイモ基腐病防除  
対策マニュアル(第3版)  
令和4年10月改訂



鹿児島県  
さつまいも育苗の  
ポイント  
(令和4年12月)



農研機構  
サツマイモ基腐病の  
発生生態と防除対策  
(令和3年度版)

## Ⅱ. 野菜

### 1. キュウリ

#### (1) ベと病

##### ア 予報内容

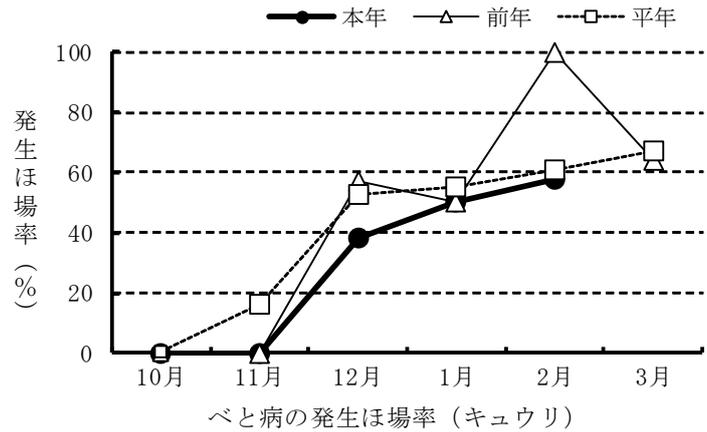
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 並

##### イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並  
発生ほ場率58%（平成61%）：並

##### ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多湿条件下で発生しやすいので、ハウス内の通風換気に努める。
- (イ) 発病葉は早めに除去し、伝染源となるためハウス外に持ち出して処分する。
- (ウ) 肥料切れや草勢の衰えは発生を助長するので、適正な肥培管理に努める。
- (エ) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除に努める。
- (オ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



注) 前年2月値は調査圃場数が平年より少ないため参考値

#### (2) 退緑黄化病

##### ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

##### イ 予報の根拠

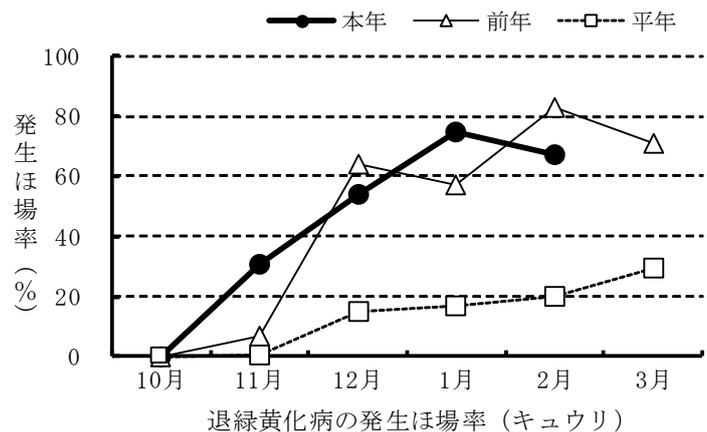
- (ア) 調査結果 発生量：多  
発生ほ場率67%（平成20%）  
：高い（+）

コナジラミ類の

発生ほ場率42%（平成42%）：並

##### ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 退緑黄化病の病原ウイルスはタバココナジラミによって媒介される。ハウス開口部（サイド等）等に黄色粘着トラップを設置し、タバココナジラミの早期発見、早期防除に努める。
- (イ) 発病株を認めたら速やかに除去し、ビニール袋等に入れて適正に処分する。
- (ウ) 発病後は発生拡大を防ぐため、タバココナジラミの密度を抑えるように薬剤防除を行う。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



注) 前年2月値は調査圃場数が平年より少ないため参考値

## 2. ピーマン

### (1) 斑点病

#### ア 予報内容

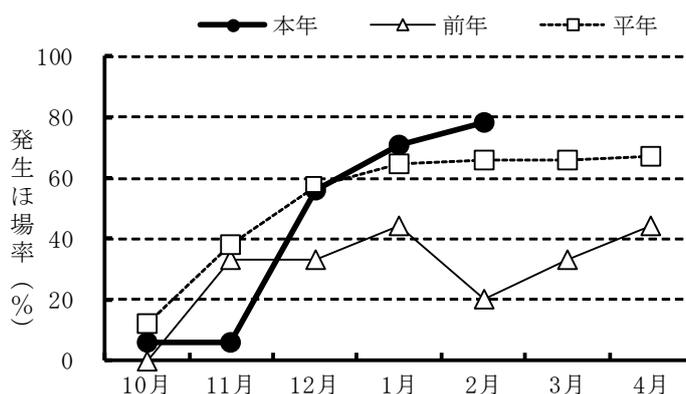
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや多

#### イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多  
発生ほ場率78%（平年66%）  
：やや高い（+）

#### ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多湿条件下で発生しやすいので、ハウス内の通風換気に努める。
- (イ) 成り疲れなどによる草勢低下により発生しやすいので、適正な肥培管理に努める。
- (ウ) 発病葉はできるだけ持ち出して処分し、菌密度の低下を図る。
- (エ) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (オ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



斑点病の発生ほ場率 (ピーマン)

注) 前年2月値は調査圃場数が平年より少ないため参考値

### (2) アザミウマ類 (令和4年度技術情報第12号 (1月27日付け) 参照)

#### ア 予報内容

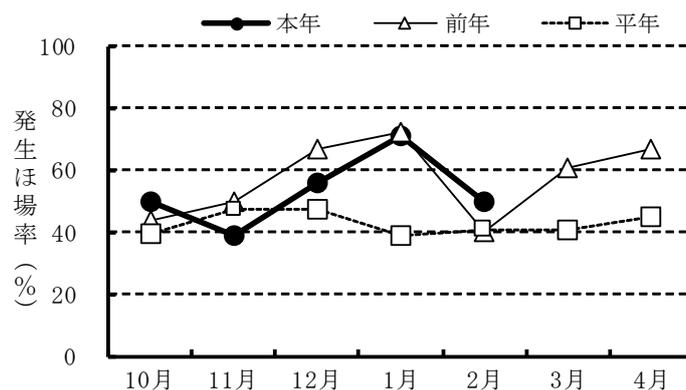
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや多

#### イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多  
発生ほ場率50%（平年40%）：並  
発生程度の高いほ場を認めた（+）

#### ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ハウスの開口部（出入り口やサイド付近）等に青色粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 花や新芽の中など薬剤のかかりにくい場所に生息するので、薬剤散布は丁寧に行う。
- (ウ) 天敵を利用しているほ場では放飼後、チャノホコリダニやアブラムシ類の発生に注意し、発生時にはスポット散布など早めの対策を講じる。なお、防除を行う場合は、天敵に影響の少ない薬剤を選択する。



アザミウマ類の発生ほ場率 (ピーマン)

注) 前年2月値は調査圃場数が平年より少ないため参考値

### 3. イチゴ

#### (1) アザミウマ類

##### ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 多

##### イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：多  
発生ほ場率80%（平年40%）  
：高い（+）

##### ウ 防除上注意すべき事項

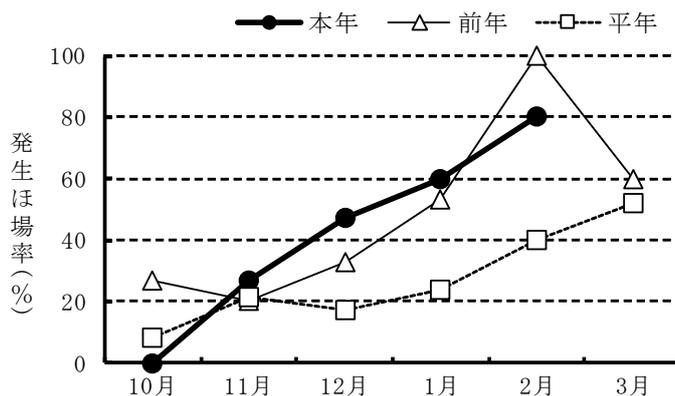
(ア) ハウスの開口部（出入り口やサイ、ド付近）等に粘着トラップを設置し早期発見と早期防除に努める。

(イ) 本虫は花や新芽の中など薬剤のかかりにくい場所に生息するので、薬剤散布は丁寧に行う。

(ウ) カブリダニ類などの天敵を放飼しているほ場では、天敵に影響のない薬剤を選択する。また、多発したほ場ではリセットを考慮した防除を行う。

(エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。

(オ) 薬剤によっては、ミツバチに影響があるので薬剤選定に注意する。



アザミウマ類の発生ほ場率 (イチゴ)

注) 前年2月値は調査圃場数が平年より少ないため参考値

#### (2) ハダニ類 (令和4年度技術情報第9号 (11月29日付け) 参照)

##### ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 並

##### イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並  
発生ほ場率73%（平年67%）：並

##### ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 下葉や寄生葉は摘葉し、ほ場外に持ち出し処分する。

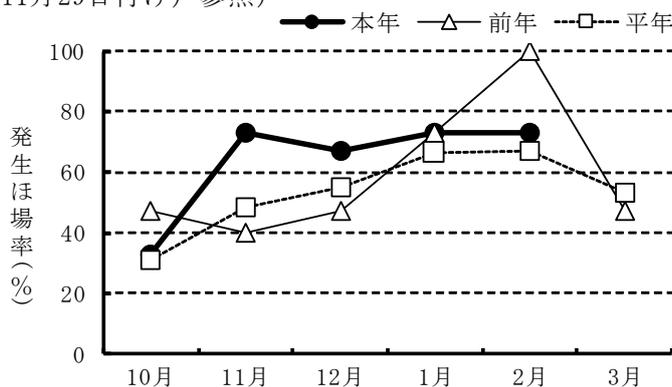
(イ) 薬剤の防除効果を高めるため、下葉かきを行ってから葉裏にかかるとよう散布する。

(ウ) 薬剤によっては感受性が低下しているので、散布後は防除効果を確認する。

(エ) カブリダニ等の天敵を放飼しているほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。また、多発したほ場ではリセットを考慮した防除を行う。

(オ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。

(カ) 薬剤によっては、ミツバチに影響があるので薬剤選定に注意する。



ハダニ類の発生ほ場率 (イチゴ)

注) 前年2月値は調査圃場数が平年より少ないため参考値

#### 4. 施設野菜共通

##### (1) 灰色かび病

###### ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作物 キュウリ, トマト,  
ミニトマト, ピーマン,  
イチゴ, サヤインゲン
- (ウ) 発生量 やや多

###### イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多

作物名	発生ほ場率 (%)		発生量
	本年	平年	
キュウリ	33	15	多
トマト	31	39	並
イチゴ	20	24	並

###### ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ハウスの通風換気を十分に行ない、過湿にならないよう努める。
- (イ) 果実部やへたの付近に付着する花卉は本病の発生源となるので、こまめに除去する。
- (ウ) 発病葉や発病果実はビニール袋等に入れてほ場外へ持ち出し、適切に処分する。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

##### (2) うどんこ病

###### ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作物 キュウリ, メロン,  
ピーマン, トマト  
ミニトマト, イチゴ
- (ウ) 発生量 やや多

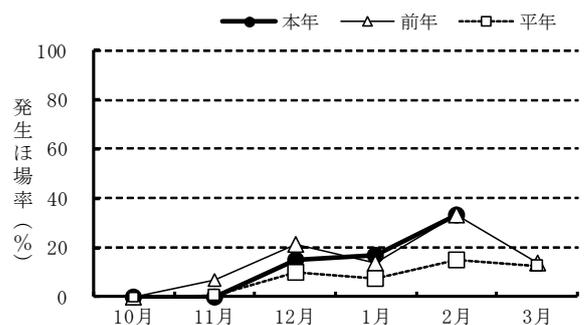
###### イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多

作物名	発生ほ場率 (%)		概評
	本年	平年	
キュウリ	25	29	並
トマト	38	13	多
ピーマン	44	45	並
イチゴ	20	17	並

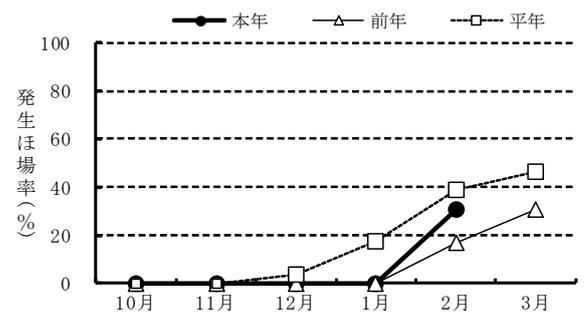
###### ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 成り疲れなど草勢が低下すると発生しやすいので、適正な肥培管理に努める。
- (イ) 発病葉は早めに除去し、施設から持ち出して処分する。
- (ウ) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



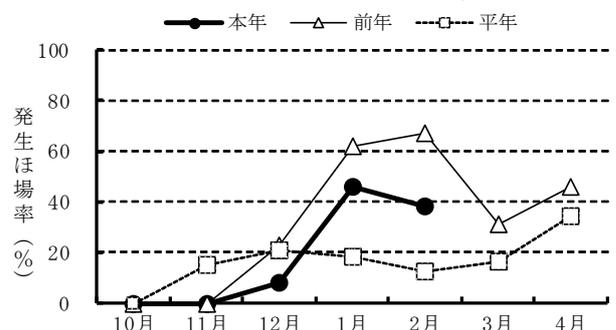
灰色かび病の発生ほ場率 (キュウリ)

注) 前年2月値は調査圃場数が平年より少ないため参考値



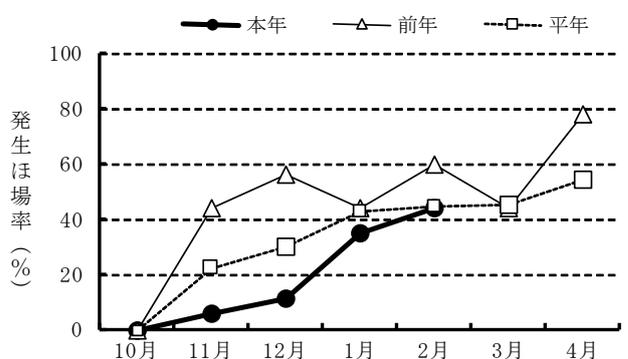
灰色かび病の発生ほ場率 (トマト)

注) 前年2月値は調査圃場数が平年より少ないため参考値



うどんこ病の発生ほ場率 (トマト)

注) 前年2月値は調査圃場数が平年より少ないため参考値



うどんこ病の発生ほ場率 (ピーマン)

注) 前年2月値は調査圃場数が平年より少ないため参考値

(3) 菌核病（令和4年度技術情報第10号（12月23日付け）参照）

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土  
 (イ) 対象作物 キュウリ，メロン，  
 トマト，ミニトマト，  
 ピーマン，ナス，イチゴ，  
 サヤインゲン  
 (ウ) 発生量 やや多

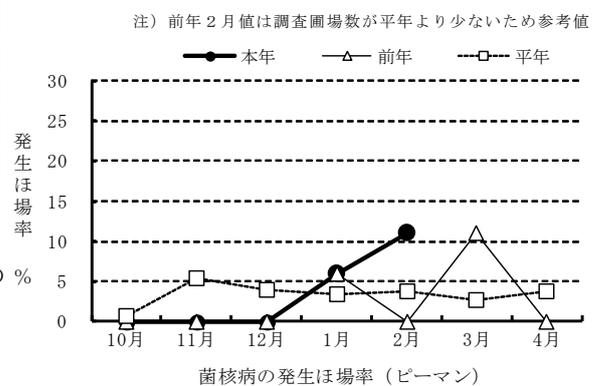
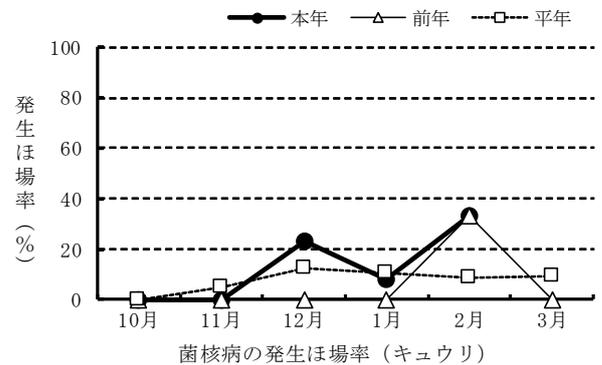
イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多

作物名	発生ほ場率 (%)		概 評
	本年	平年	
キュウリ	33	9	多
ト マ ト	0	14	少
ピーマン	11	4	多
イチゴ	0	0	並

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多湿条件下で発生しやすいので、ハウス内の % 通風換気に努める。  
 (イ) 発病に注意し予防散布に努める。  
 (ウ) 病原菌は活力の衰えた花びらや枯葉、整枝後の傷口、枝分岐部付近から感染しやすいので、薬剤は対象部位へ十分かかる様に散布する。  
 (エ) 発病部位から健全部へ菌糸によって被害が拡がるので、発病した花卉、枝葉、果実等は直ちに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。  
 (オ) 発病株は周辺株や次作の伝染源となるので、菌核を生じないうちにほ場外に持ち出し、適正に処分する。  
 (カ) 適切な肥培管理により植物体が過繁茂にならないようにする。  
 (キ) 収穫終了後の残さは適正に処分する。



5. キャベツ

(1) 菌核病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

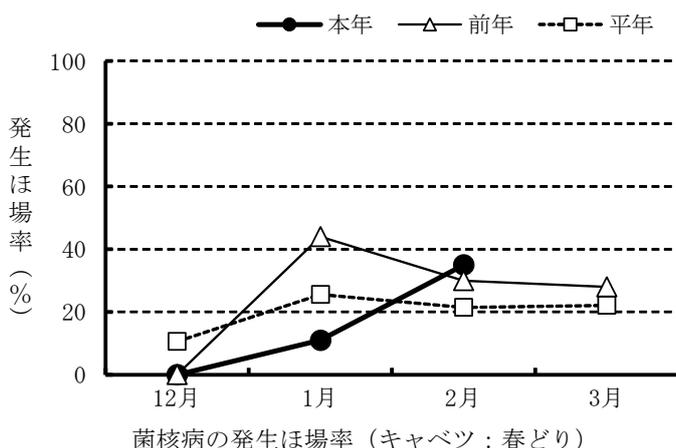
- (ア) 調査結果 発生量：やや多  
発生ほ場率35%（平年21%）  
：やや高い（+）

(イ) 気象予報

- 気温：平年並みか高い（+）
- 降水量：平年並みか少ない（-）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多湿条件で発生しやすい。湿度や土壌水分量に注意しながら、予防散布に努める。
- (イ) 病原菌は地際部から感染しやすいので、薬剤は株元へ十分かかるように散布する。
- (ウ) 発病部位から健全部へ菌糸によって被害が広がるので、発病葉は見つけ次第取り除く。
- (エ) 発病株や周辺株は伝染源となるので、菌核を生じないうちにほ場外に持ち出し処分する。
- (オ) 収穫を終えたほ場に残っている発病株は、次作の伝染源となるのでほ場から持ち出し、適正に処分する。



6. エンドウ類

(1) 褐紋病・褐斑病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

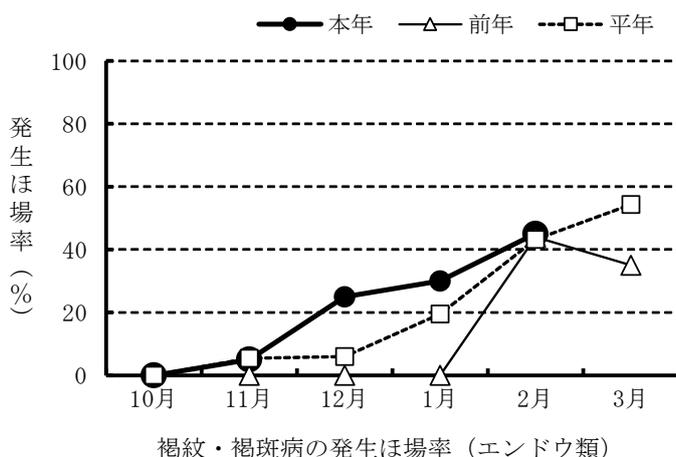
- (ア) 調査結果 発生量：並  
発生ほ場率45%（平年43%）：並

(イ) 気象予報

- 気温：平年並みか高い（+）
- 降水量：平年並みか少ない（-）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 排水不良のほ場では多発しやすいので、排水対策に努める。
- (イ) 早期発見に努め、発生を認めたら直ちに防除を行う。



(2) うどんこ病

ア 予報内容

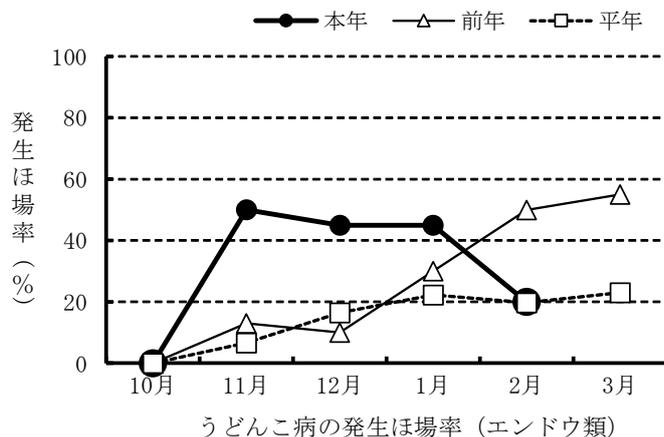
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並  
発生ほ場率20%（平年20%）：並

(イ) 気象予報

- 気温：平年並みか高い（+）
- 降水量：平年並みか少ない（+）



ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 莢にごま症を発生させ、商品性の低下につながる。うどんこ病は多発すると防除が困難になるので、早期発見に努め、発生を認めたら直ちに防除を行う。
- (イ) 下位葉の葉裏から発生しやすいので、薬剤が十分かかるように散布する。
- (ウ) 多発ほ場では5～7日おきに連続散布し、徹底した防除を行う。
- (エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤とのローテーション散布を行う。

(3) ハモグリバエ類

ア 予報内容

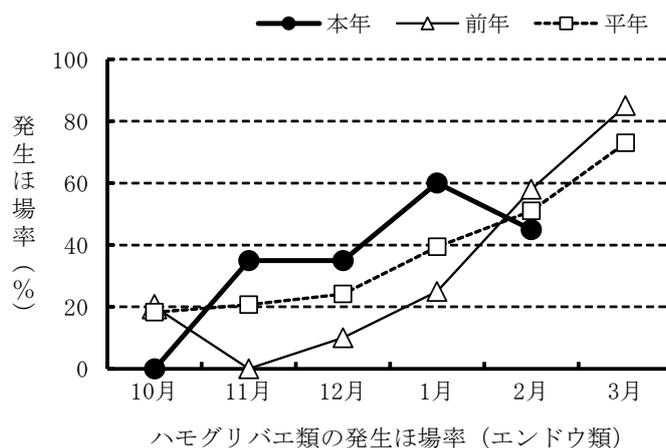
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並  
発生ほ場率45%（平年51%）：並  
一部ほ場で産卵痕を認めた（+）
- (イ) 気象予報  
気温：平年並みか高い（+）  
降水量：平年並みか少ない（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 葉に産卵痕があるかを観察し、認めた際は早期防除に努める。
- (イ) 薬剤は葉裏にも十分かかるよう散布する。
- (ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



(4) アザミウマ類

ア 予報内容

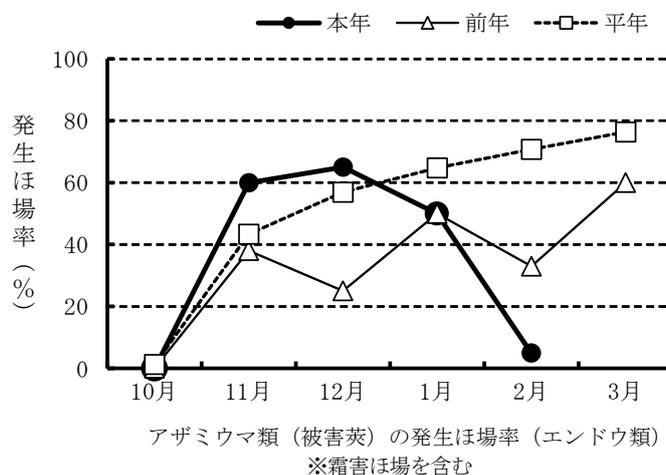
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 やや少

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：少  
発生ほ場率5%（平年71%）  
：低い（-）
- (イ) 気象予報  
気温：平年並みか高い（+）  
降水量：平年並みか少ない（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) アザミウマ類は若莢に産卵し、「白ぶくれ莢」となるので、若莢の被害や青色粘着トラップでの誘殺から発生状況を把握し、早期防除に努める。
- (イ) 薬剤のかかりにくい花卉の奥や若莢に寄生するので、丁寧な薬剤散布に努める。
- (ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



7. バレイシヨ

(1) 疫病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県内全域
- (イ) 対象作型 春作
- (ウ) 発生量 県本土：並  
熊毛地域：やや多  
奄美地域：少

イ 予報の根拠

<県本土>

- (ア) 調査結果 発生量：並  
発生ほ場率0% (平年3%)：並
- (イ) 気象予報

- 気温：平年並みか高い (+)
- 降水量：平年並みか少ない (-)

<熊毛地域>

- (ア) 調査結果 発生量：やや多  
発生ほ場率50% (平年23%)  
：やや高い (+)

茎葉の折損が多い (+)

(イ) 気象予報

- 気温：平年並みか高い (+)
- 降水量：平年並みか少ない (-)

<奄美地域>

- (ア) 調査結果 発生量：少  
発生ほ場率0% (平年57%)  
：低い (-)

茎葉の折損が多い (+)

(イ) 気象予報

- 降水量：平年並みか少ない (-)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 降雨が数日続いた場合や、土壤水分が高い場合に発生しやすく、発病後は急速に病勢が進展するので、防除は予防散布に重点をおき、適期を逃さないように注意する。

(イ) ほ場の見回りを行い、発生が認め

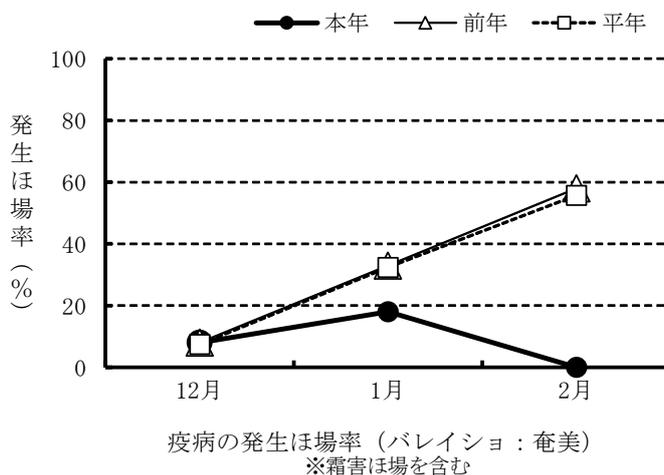
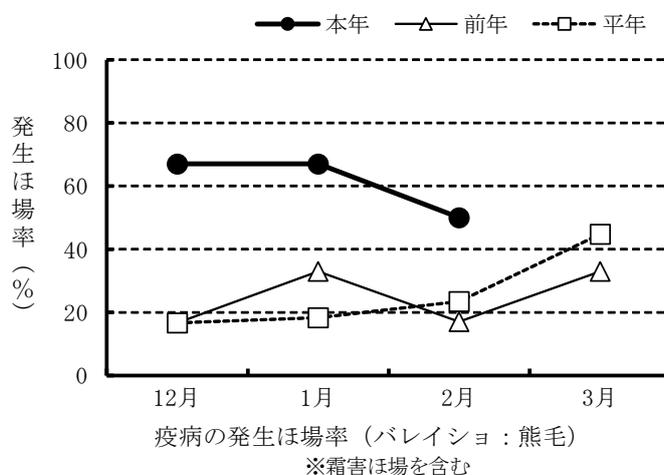
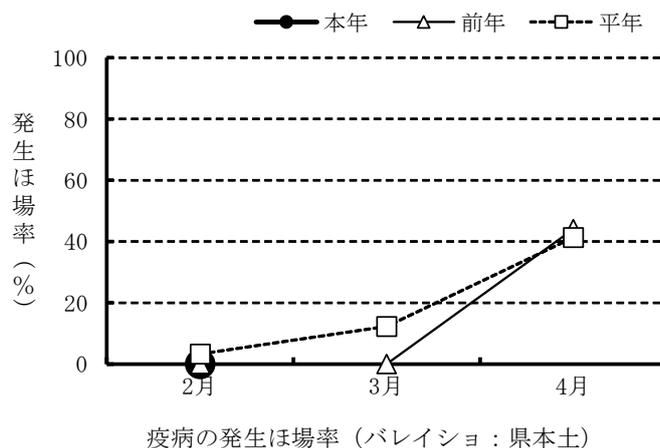
られたら直ちに防除を行う。その後は、進展状況に応じて7~10日後に追加散布を行う。

(ウ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

(エ) 収穫が遅れると被害拡大につながるため、適期収穫を行う。

(オ) 発病株は次年度の伝染源となるため、ほ場外に持ち出し適正に処分する。

(カ) 薬剤防除にあたっては令和4年度技術情報第11号(令和4年12月23日付け；ホームページ掲載)を参照。



.....

## 防除に関する今月の留意事項

### 1. 露地野菜の寒害・霜害後の病害対策

寒害・霜害を受けたほ場では草勢が低下し、茎葉の傷等から病害が発生しやすくなるため、以下の点に考慮した防除対策に努める。

- (1) 速効性肥料の追肥や葉面散布を行い、草勢の回復を図る。
- (2) エンドウ等では気温が高くなり、曇天が続くと、枯死した茎葉から灰色かび病が発生することから予防防除に努める。
- (3) バレイショでは、再萌芽した茎葉が繁茂する頃に疫病が発生する時期になるので、予防防除に努める。

### 2. アブラナ科野菜収穫後の病害対策（菌核病、根こぶ病の耕種的防除）

次作での発生を抑えるため、以下の点を考慮した総合的な防除対策に努める。

#### ○菌核病対策

- (1) 発病株は抜き取り、菌核を落とさないようには場外へ持ち出し処分する。
- (2) 多発ほ場では、発病株を天地返しで土中深く埋没し、次作はアブラナ科野菜、レタス等以外の作物を栽培する。

#### ○根こぶ病対策

- (1) ほ場の作業機が出入りする付近に発生しやすい。出入り口付近で生育不良や萎れを生じる株は根にこぶ状のものがあるか否かを確認する。根にこぶ状のものが付着してしている場合は、本病の発生が考えられるので、最寄りの地域振興局・各支庁の農政普及課もしくは病害虫防除所に連絡する。
- (2) 作業機械等に付いた土は丁寧に洗い落とす。また、発生ほ場の管理は最後に行う等、汚染土壌の移動を避ける。

### 3. バレイショ収穫後の病害対策（疫病・菌核病の耕種的防除）

収穫残さが次作の一次伝染源となるので、収穫後は以下のほ場管理を適切に行う。

- (1) 収穫後の発病茎葉や屑いも等は、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。
- (2) 疫病、菌核病の発生が多く、ほ場外へ残さの持ち出しが困難なほ場では、天地返しにより残さを土中深く埋没させ、次作にサトウキビ、イネ科牧草等の輪作を行う。

### 4. その他野菜等の残さ処理について

菌核病や軟腐病をはじめ、収穫後の残さは次作に対して様々な病害虫の伝染源（発生源）となるので、速やかにほ場外へ持ち出し、適切に処分する。ほ場外への残さ持ち出しが困難なほ場では、複数回の耕耘により残さの分解を促す。

## II. 花き（キク）

### (1) ハダニ類

#### ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土（施設）  
 (イ) 発生量 並

#### イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並  
 発生ほ場率20%（平年26%）：並

#### ウ 防除上注意すべき事項

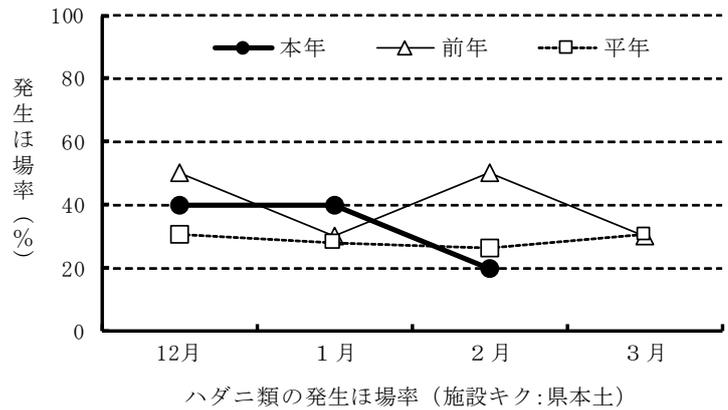
##### (ア) 出入口や前作での発生場所近

く等でスポット状に発生する場合がありますので、ほ場全体をよく見回り、早期発見と早期防除に努める。

(イ) ほ場内と周辺の雑草や収穫後の残さ等は早めに除去し、適正に処分する。

(ウ) 薬剤は葉裏までよくかかるように十分量を散布する。

(エ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。



### (2) アザミウマ類

#### ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土（施設）  
 (イ) 発生量 並

#### イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並  
 発生ほ場率20%（平年18%）：並

#### ウ 防除上注意すべき事項

##### (ア) キクえそ病(TSWV), キク茎

えそ病(CSNV)を媒介するので、ほ場への侵入防止と早期発見および早期防除に努める。

(イ) クログハナアザミウマは主に中下位葉に寄生するため、薬剤は下葉の葉裏までかかるよう丁寧に散布する。

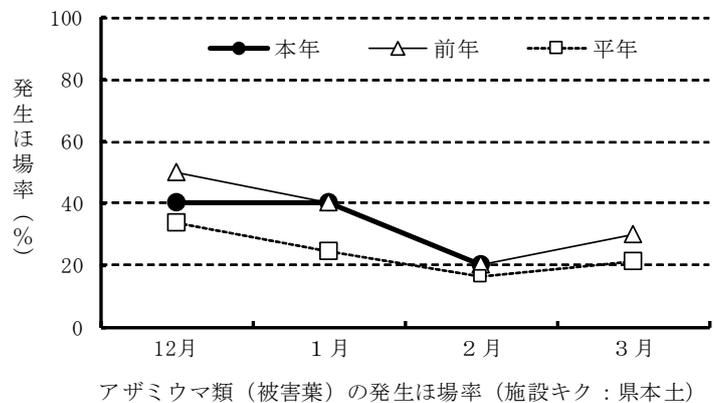
(ウ) 母株や苗の導入に際しては、本虫の寄生やウイルス感染に細心の注意を払う。

(エ) 施設では開口部に目合い0.6mm以下の防虫ネットを張る。発生動向を把握するためには出入口や開口部付近での青色粘着シートの設置が有効である。

(オ) 除草等の環境整備を行うとともに、母株の防除を徹底する。

(カ) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

(キ) 栽培終了後は、速やかに残さを処分する。



#### IV. 茶 樹

##### (1) カンザワハダニ

###### ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 やや多

###### イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率 34% (平年 37%)：並

寄生葉率 1.1% (平年 1.9%)：並

###### (イ) 気象予報

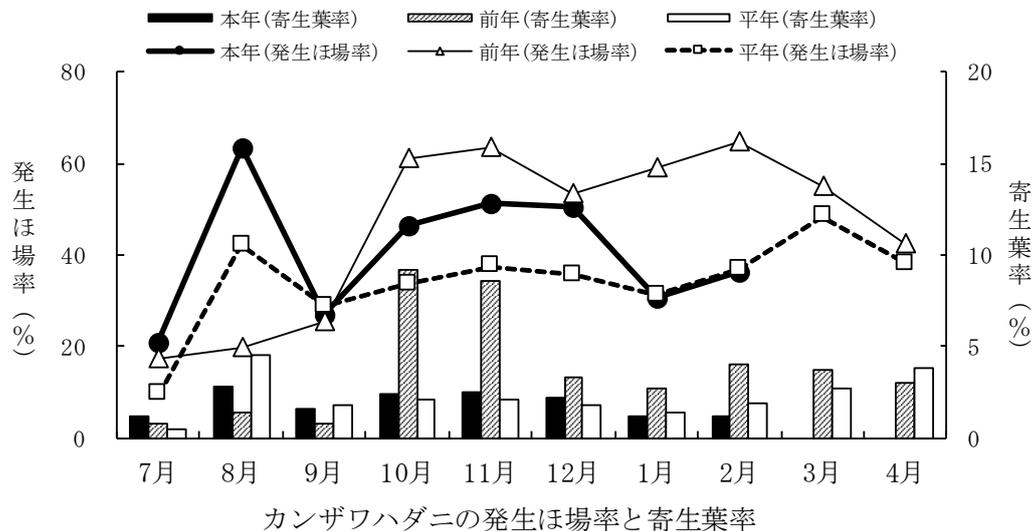
気 温：平年並みか高い (+)

降水量：平年並みか少ない (+)

###### ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 平均気温が10℃を超えると産卵・増殖が盛んとなり寄生密度が急増するので、ほ場での発生状況を把握し、発生初期の春期基幹防除に努める。

(イ) 薬剤は、裾部・葉裏に十分かかるように留意する。



## 農薬の適正使用について

農薬は以下の点に注意して適正に使用しましょう。

1. 使用前にラベルや説明書をよく読む。  
決められた対象作物・使用時期・回数・使用濃度等を守り、記載された用途、方法以外では使用しない。
2. 使用する農薬にあわせて、適切な防除衣、保護具（マスク・手袋など）を着用する。
3. 散布前には防除器具の整備・点検をする。
4. 体調がすぐれないときは散布作業を避ける。
5. **散布時には薬剤がほ場の外に飛散したり、流出したりしないよう十分注意する。**
6. **クロルピクリン剤は、住宅地および畜舎に隣接するほ場や、無風の時、土壌が乾燥しているときは使用しない。注入後は直ちに穴をふさぎポリエチレンフィルム等で10日以上被覆する。**
7. ランネート剤は毒性が強いので、施設内や噴霧のこもりやすい場所では使用しない。
8. 使用期限の切れた農薬、不要になった農薬および使用済みの空容器は適正に処分する。
9. 農薬は食品と区別し、鍵をかけて保管する。
10. 農薬の散布記録をつけておく。

### 「予報の根拠」の記載方法

- 調査結果の発生量は、前月の巡回及び定点調査による。
- 野菜類共通病害虫の発生量は、各作物での発生量やトラップ調査結果等を総合的に基づいた総合評価。
- 発生ほ場率と調査場所を記載しない発生数・発生率は、巡回調査の結果。
- 果樹と茶樹の定点防除園又は無防除園は、果樹部と茶業部での調査結果。
- 調査結果や気象予報等の末尾の（＋）、（－）は、発生量の増加、減少要因を示す。
- 気象予報は、向こう1か月の長期予報。
- 平年値は原則として過去10年間の平年を用い、本年調査値の後に（平年○○）で表記する。ただし、過去3年間の平均値を用いた場合は（過去3年○○）と表記する。